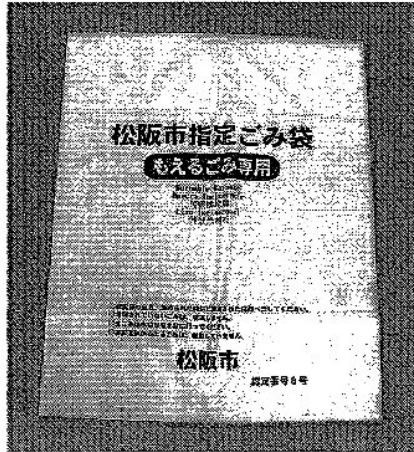


# 再生ごみ袋の販売計12万枚超に

## 三功 廃プラRループ事業で

三功(津市、片野宣之社長)は、廃プラスチックを原料にした再生ごみ袋の本格販売を昨年開始し、累計販売枚数が計約12万枚を超えた。自社施設で廃プラを破碎・洗浄・脱水・圧縮梱包して出荷、中国工場でごみ袋



廃プラの再生ごみ袋

に再生して日本に戻し、排出元が購入す

ることでリサイクルループを構築。三重県松阪市の指定ごみ袋にも採用されており、同市内のコンビニなど販売先を広げている。

同社の廃プラリサイクル事業では、1997年から選別物の有価販売を開始。07年には中国の製品工場と提携し、リサイク

ループのシステム化に成功。新賞商店(愛知県岡崎市)、西山商店(名古屋市中区)、明輝クリナー(愛知県豊橋市)と4社共同で取り組ん

だ。PPとPEの中国への輸出量は合計すると毎月約10ト。そのほか、PETフлексは浙江省の寧波市にある纖維工場へ向けて毎月約40

てきた。販売するごみ袋は、再生PEを15%使用したもの。同社から出荷したPEを原料に、上海の製袋工場で製造している。昨年5月から累計販売枚数は、松阪市の指定ごみ袋が5万3000枚、透明ごみ袋が45ト・70ト・90トの3タイプ合計で7万1000枚となっている。今後、三重県下で新たに指定袋を計画している自治体向けにも販売していく計画

シを輸出し、糸の房茶として使用される。PSも毎月約20トのペー

日本国内では、再生パレットやRPF原料のほか、フラフ状のまま圧縮・梱包し、月間数十トを燃料として国内の製紙工場に売却。RPFも自社内工場の洗浄施設で使用するRPFボイラーで燃料として利用し、余ったRPFは製紙工場に月間10ト前後を収めている。需要家からは塩素含有量0.3%以下(重量費)「Aランク」評価を受けている。